

14 <吉原宿>

元の吉原宿はJR吉原駅の近くにあつたが、2度も津波の被害にあい天和2年（1682）現在の所へ移った。



本陣 2軒

脇本陣 3軒

この先の右側に長谷川・神尾本陣の2軒
があったが、今は何も残っていない。



宿の出口 直角に曲がっている。

3 東田子の浦 から
吉 原 ゆき
56.11.3 発売当日限り有効 130円
下車前途無効東田子の浦駅発行小
吉原宿



左が岳南線の吉原本町駅で、踏切を渡って吉原宿に入る。



江戸時代中期の天和2年（1682）
の創業の老舗旅館。大名の宿泊した時
の宿札がたくさん残っている。



宿内人口

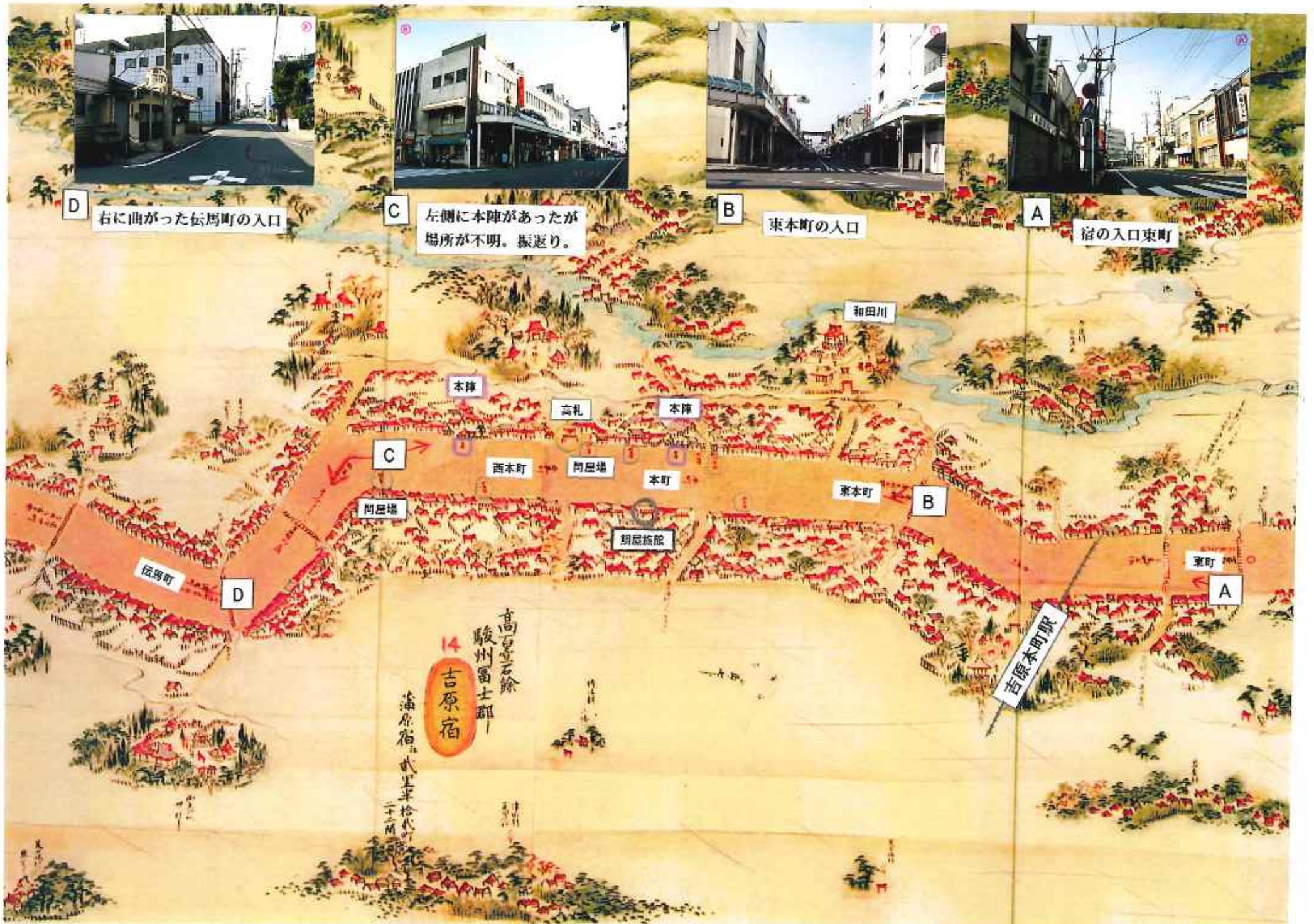
2832人

総家数

653軒

旅籠
60
軒

大
中
小
11
14
35
軒
軒
軒





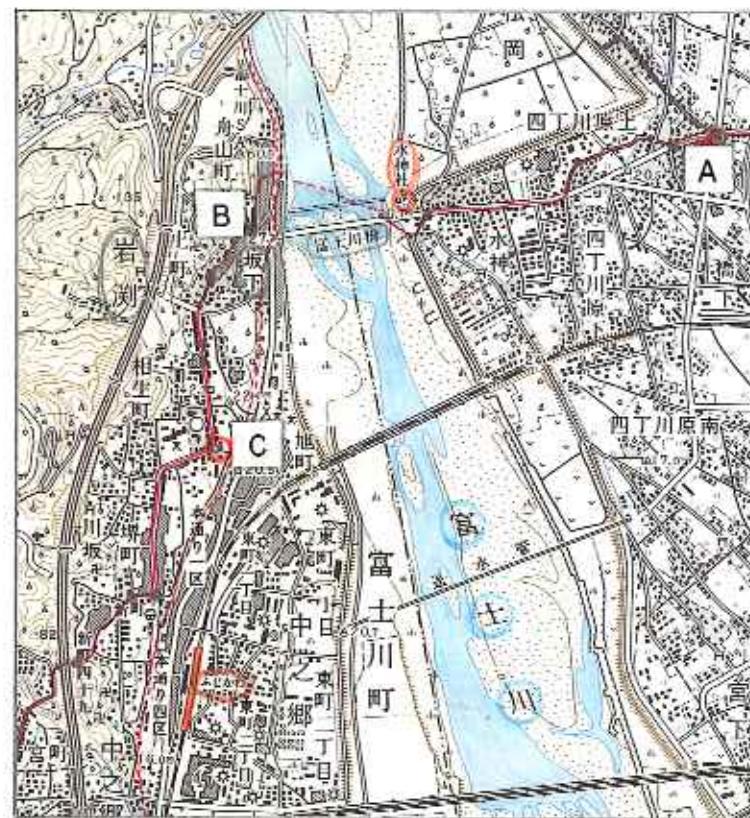
身延線の柚の木のバス停。
昔の柚木村。



A 下往還の道。慶応元年（1865）の
常夜灯と道標がある。



富士市平垣町の旧道。ふり返ってみる。



吉原宿を出て潤川を渡ると長い直線の道がある。富士市青島町。



塔の木町から見た富士



C 岩瀬の一里塚 江戸から数えて37番目の塚で両側共残っている。14.8km。



新幹線のガードをくぐり、東名高速の陸橋を渡って蒲原宿に入る。



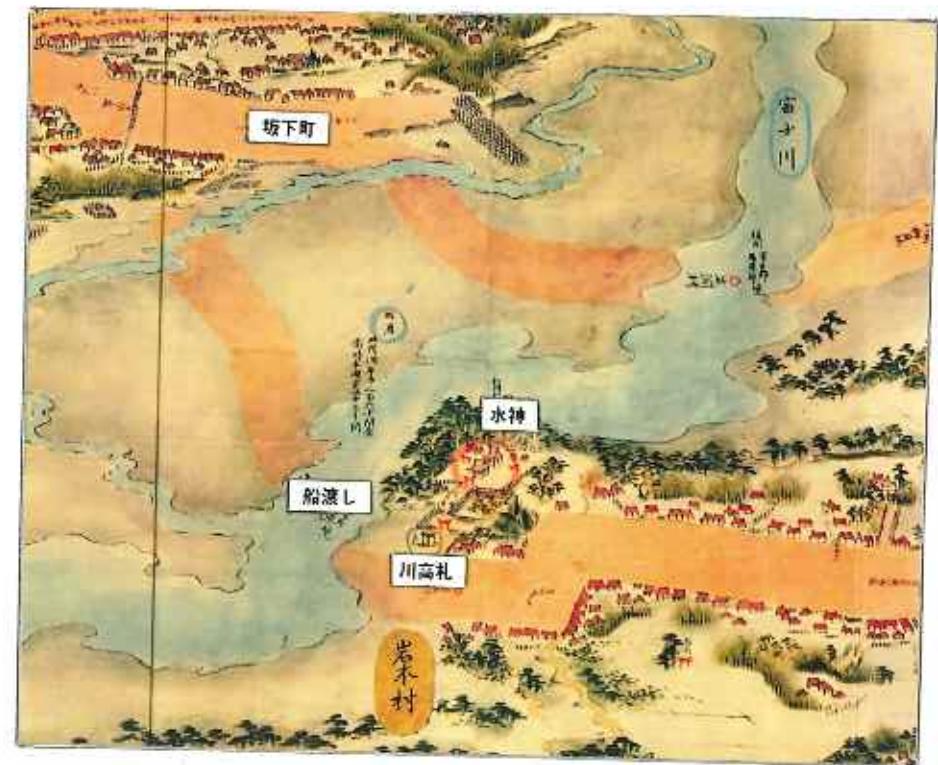
富士川の鉄橋を渡る 明治20年頃初めて木の橋が架かけられた。鉄橋になったのは大正13年からとある。



B 富士川を渡り古坂を上る。
昔の岩瀬村。



富士川の渡し場の説明板。



富士川の渡し船は慶長7年（1602）開始された。それ以前は船で浮橋を作って渡っていた。日本3大急流の1つ。

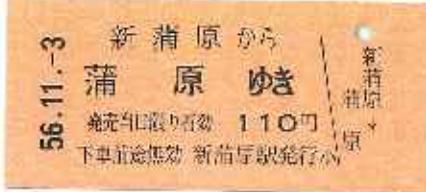
15 『蒲原宿』

古代からの宿駅で、甲州とも

結ばれた交通の要地



本陣 1軒 旧本町にある平岡本陣。現在は佐藤家
が住まわれている。
脇本陣 3軒



J R 蒲原駅



宿場の中心地は新蒲原駅が近い。ここ
は西のはずれで、この先左に曲がって
宿を出る。



蒲原城址 室町時代前期の築城とされ
る山城。天正18年廃城となった。
標高150mで海側の見晴らしが良い。



和泉屋 本陣の向い側にある元は上旅
籠の旅館だった家。天保年間（183
0～1844）の建物で、安政の地震
でも倒れなかった。

宿内人口

2480人

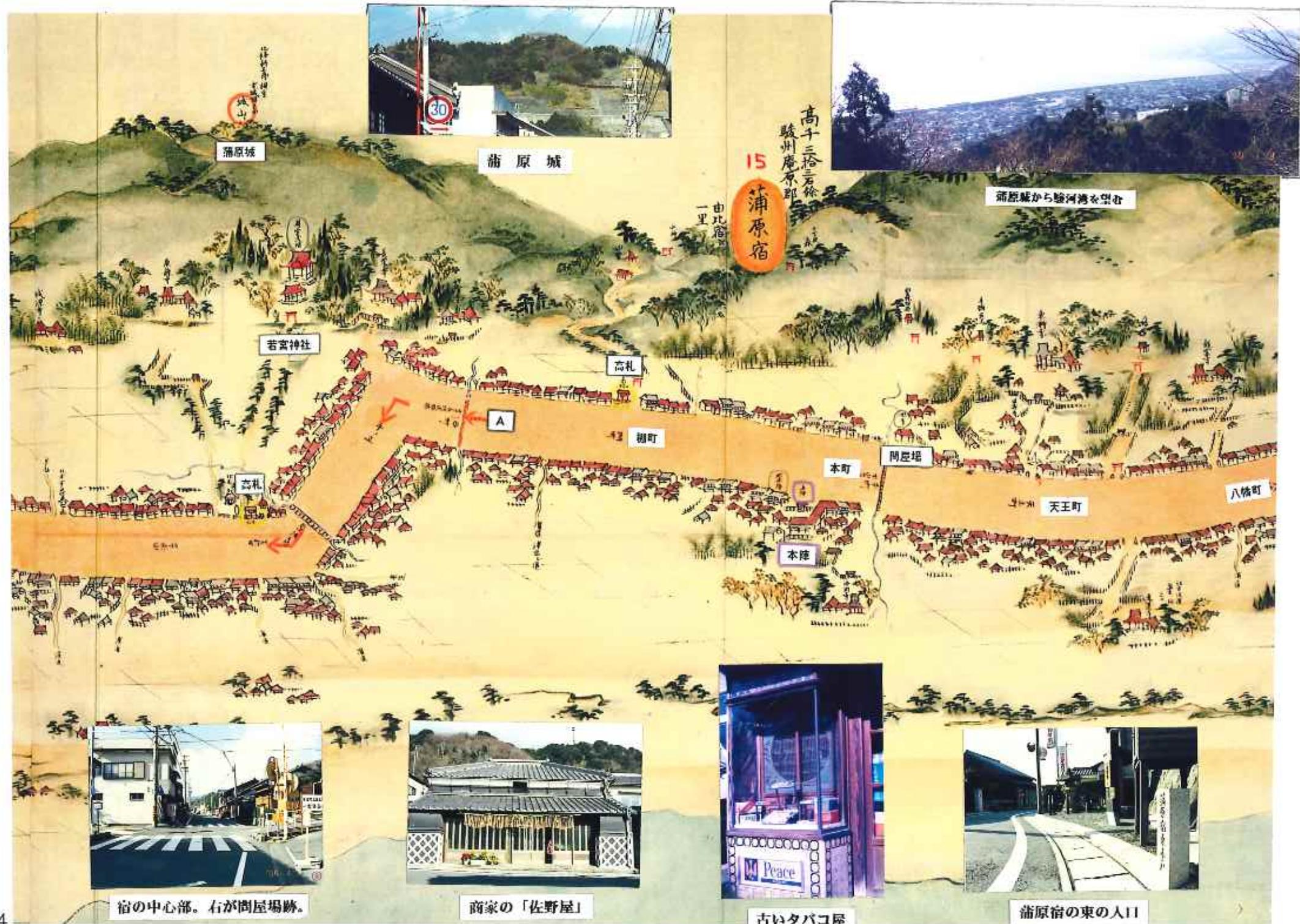
総家数

509軒

旅籠

42
軒

大 9
中 14
小 19
軒



宿の中心部。右が間屋場跡。

商家の「佐野屋」

古いタバコ屋

蒲原宿の東の入り



C 国道との分岐点 東名高速の下を通り国道1号線を右に見て、左へ入るのが旧道。



A 蒲原宿の出口 東海道はここで蒲原宿を出て手前を左に曲がる。ふり返って見る。蒲原3丁目。



D 神沢川を渡り由比宿に入る。



B 左側に古い家並が続く。この裏は東海道線が走り駿河湾が望める。昔の小金村。



16 ≪由比宿≫

鎌倉時代からの宿駅で、難所の薩埵峠をひかえた宿



本陣 1軒 由比宿本陣の由比家。今は公園として整備されている。
脇本陣 1軒



J R由比駅



由比正雪の生家 本陣の向い側にある。
 代々紺屋を営みのれんには「正雪紺屋」と書かれている。丸橋忠弥と共に幕府の転覆を計画したがかなわず駿府の宿で47才で自決した。



古い街並の宿をゆく。



由比宿の入口

江戸から39番目(156km)の一里塚のあった所で右側に絵にある十王堂のお堂がある。由比新町。

宿内人口

713人

総家数

160軒

旅籠

32軒

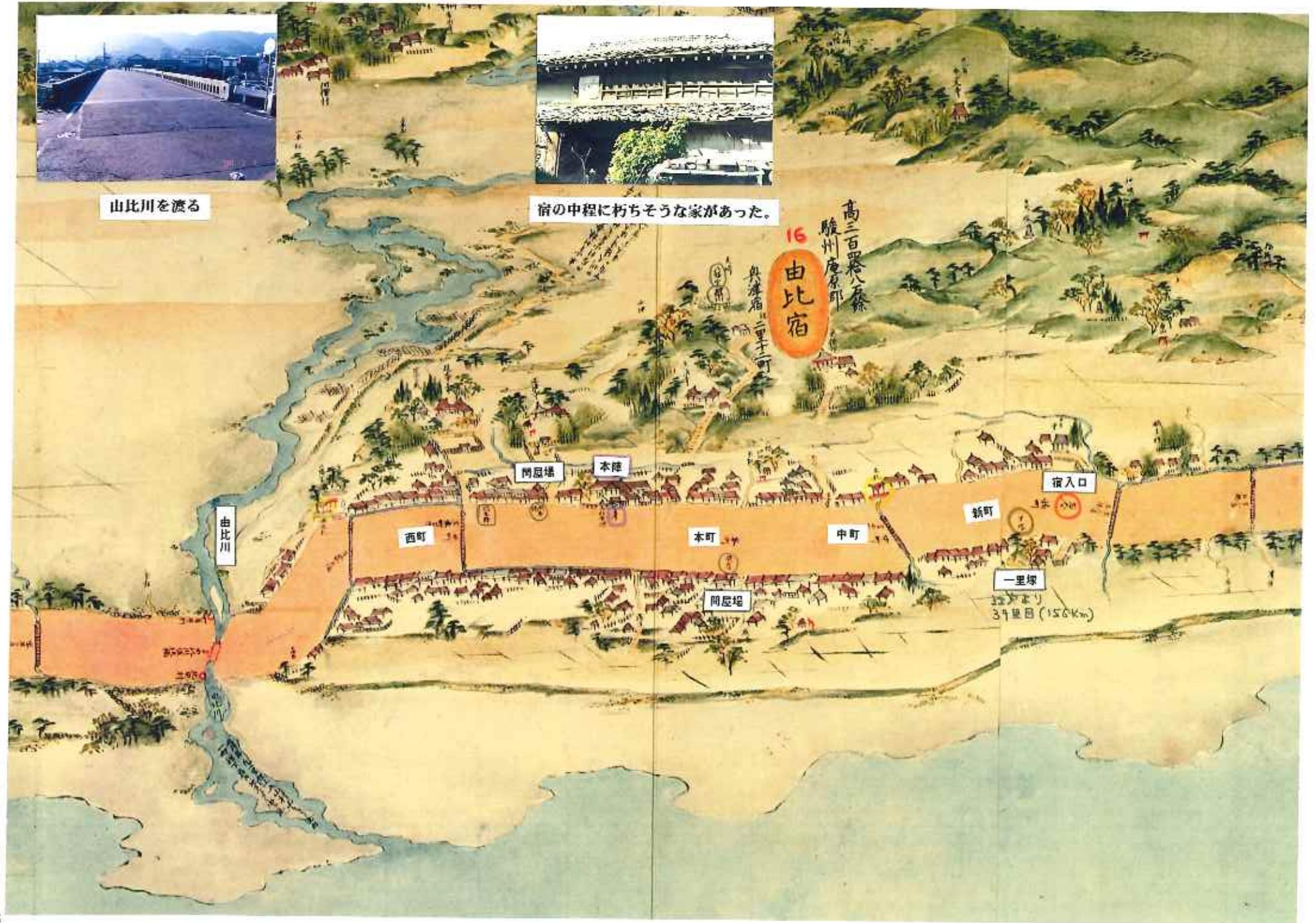
大軒

中軒

小軒

10軒

21軒





この先に本陣の川島家があった。
ここは由比町西倉沢。



ここは間の宿で10軒程の茶屋があった。当時の道幅がそのまま残っている。



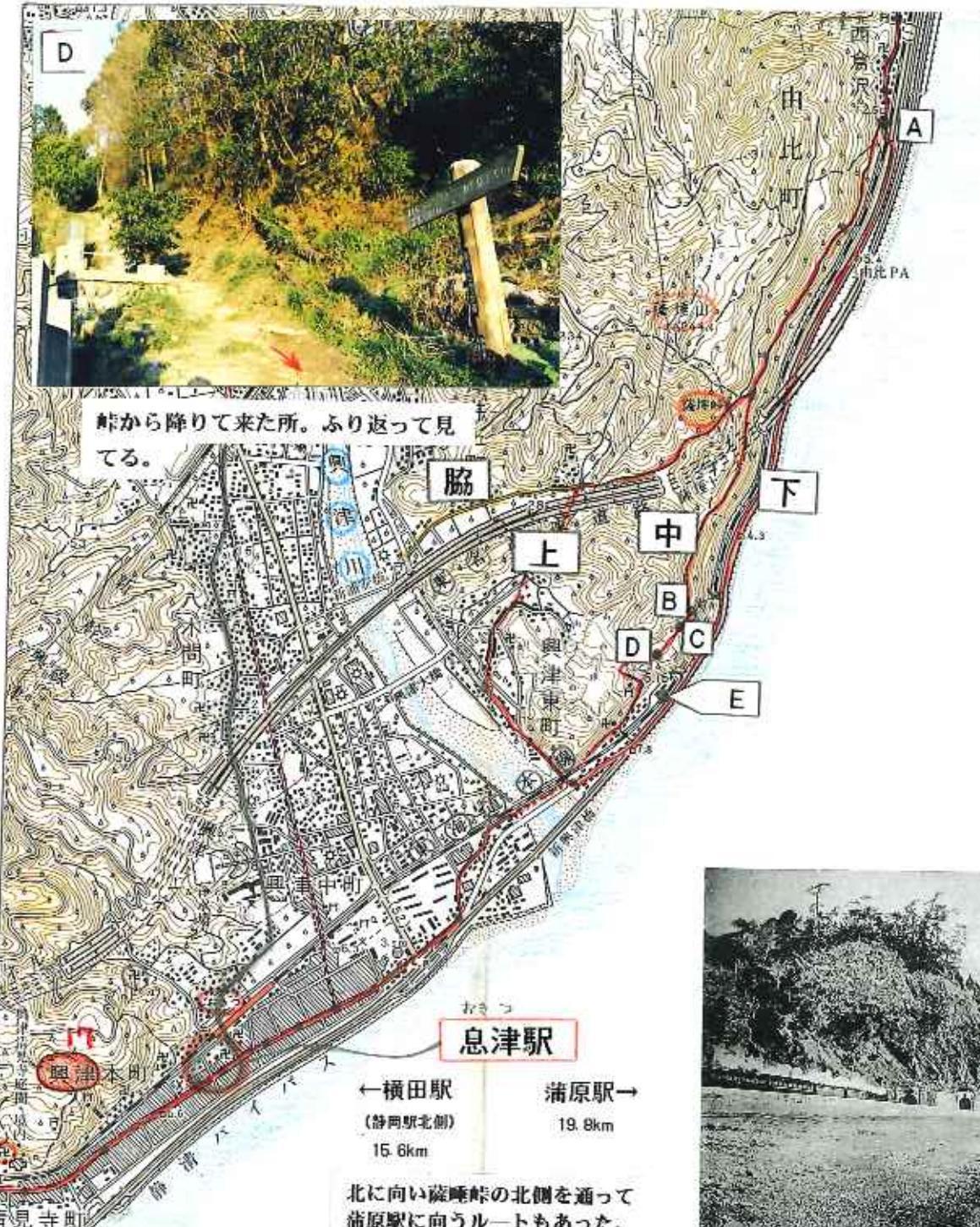
由比宿を出てしばらく行くと、古い家並の残る寺尾の旧道に入る。



B
峠の少し手前からの写真。東海道線と国道1号線・東名高速が並んで走っている。駿河湾の先に富士山が眺められる。



A
薩埵峠の登り口 左の道は下道で、ここが中道との分岐点となっている。望獄亭の茶屋がいまでも左側にある。



さつた
薩埵峠の歴史

- 下道 古代、中世の頃の最も古い道で波打際を通りていた。
 - 中道 承応3年（1654）開かれた山の上の道。
 - 上道 明暦元年（1655）開かれ大名行列もここを通った。
 - 脇道 古代、中世の道で荒天候の時の廻り道と思われる。



大正時代の写真

興津側から見た薩摩峠のトンネルの入口。蒸気機関車が走っている。

17 <興津宿>

古代の官道の「息津駅」があつた所



本陣 2軒

昔の西町で、右側は西の本陣手塚家だが今は標識が建ってるのみ。

脇本陣 2軒

左側が脇本陣だった「水口屋」で大きな木が残っている。

由比から
興津ゆき
56.11.3
新規当日限り有効 130円
下車前後無効 由比駅発行 小
由比
興津



J R 興津駅

古くは息津とも書いた交通の要地。



興津本町



右側が興津駅



興津の中心地。日本橋から 165 km
の標識がある。

宿内人口

1668人

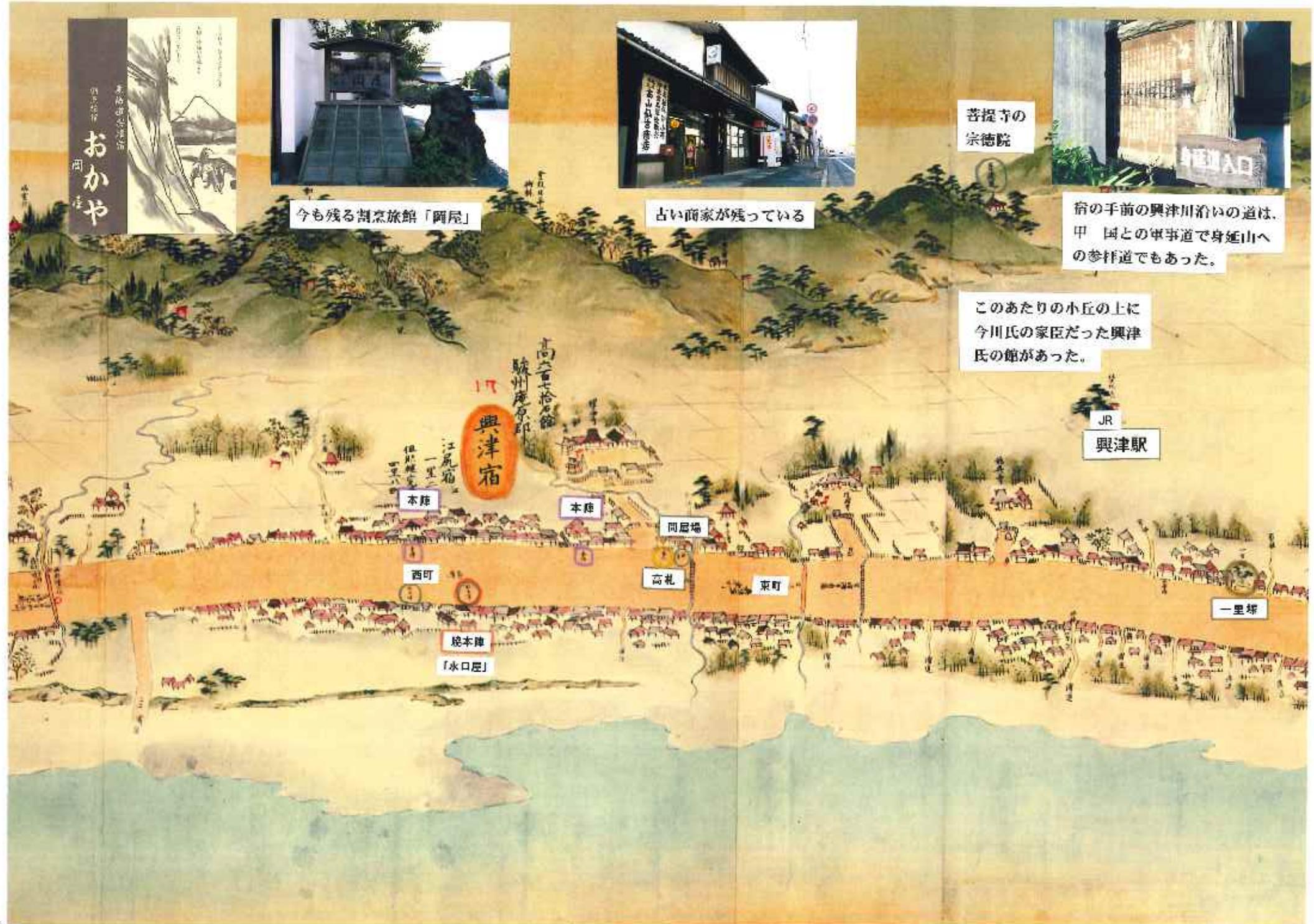
総家数

316軒

旅籠
34軒

大 5軒
中 18軒
小 11軒

軒
軒
軒



宿の手前の興津川沿いの道は、中國との軍事道で身延山への参拝道でもあった。

このあたりの小丘の上に
今川氏の家臣だった興津
氏の館があった。



右の写真の先の国道を左へ入った所。
横砂東町。



清見寺の少し先の旧道。この先を左に
曲がる。



上の写真の少し先の旧道。



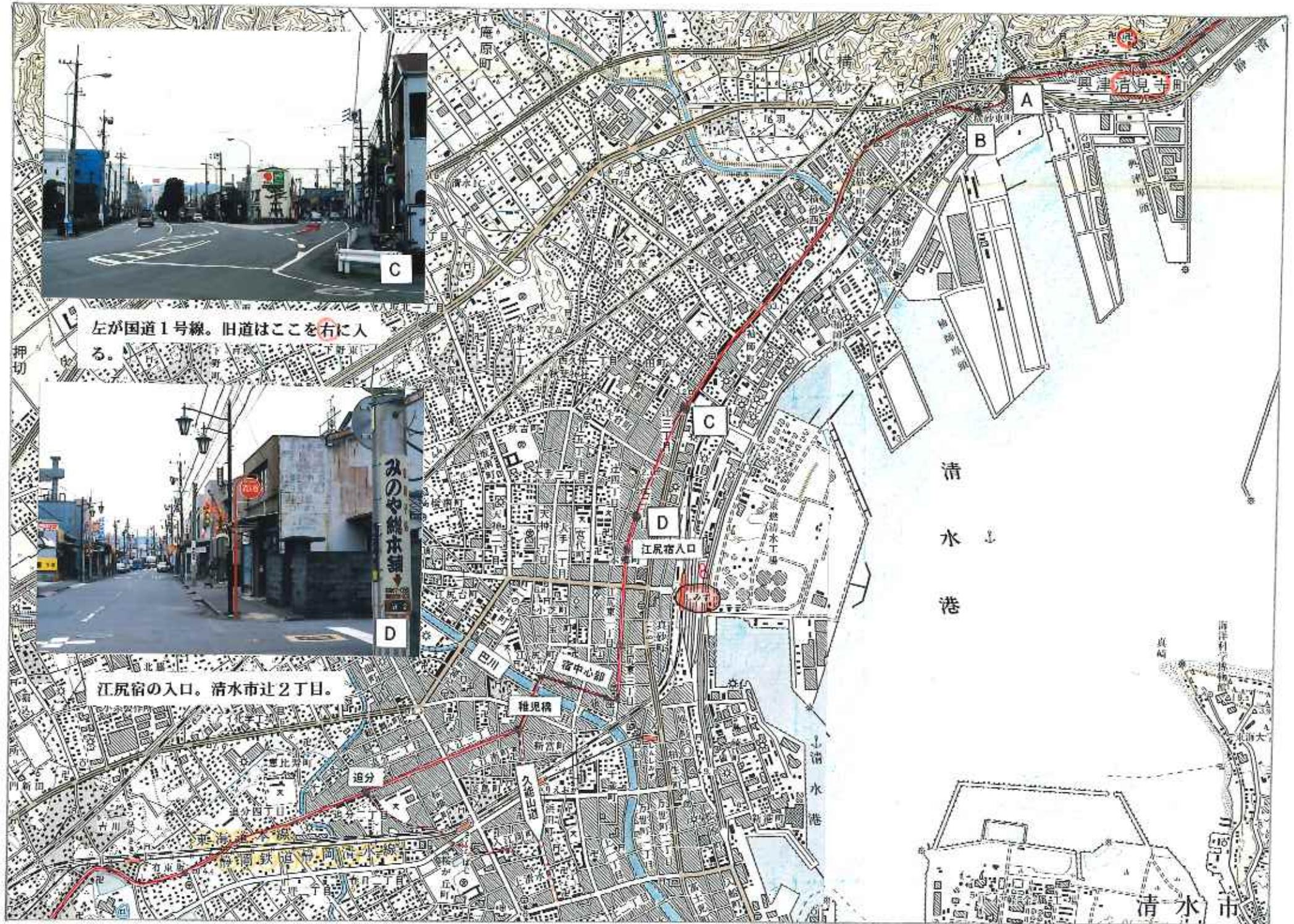
清見ヶ関の跡

興津宿を出るとまもなく平安時代に開
所があった昔の清見寺門前町に出る。



清見寺

奈良時代の少し前の白鳳年間（673～686）に開かれたという古刹。臨濟宗。家康が今川氏の人質となっていた時ここで教育を受けといい、朝鮮通信使の宿泊所にもなっていた。今は東海道線が寺の中を横切っている。興津清見寺町。



ザキ



魚町（今も銀座魚町）



寺尾本陣 標識が建っている。

本陣

3軒

脇本陣

3軒

写真の左手前側が本陣の寺尾家。今の清水銀座だが閑散としていた。この突き当たりが江尻城があった江尻小学校。この先を左へ曲がると稚児橋に出る。



稚児橋 巴川に架かる橋。この先の入江町までが江尻の宿。



江尻城跡 永禄11年（1568）甲斐の武田信玄が駿河に攻め込んだ時に築いた城。今の江尻小学校がその跡地。



JR 清水駅 平成30年8月18日撮影



昔の下町の曲がり角で旧道は右へ曲がる。今の清水銀座の入口。

18 ≪江尻宿≫

静岡県清水市

宿内人口

6498人

総家数

1340軒

旅籠

50軒

大6軒
中16軒
小28軒

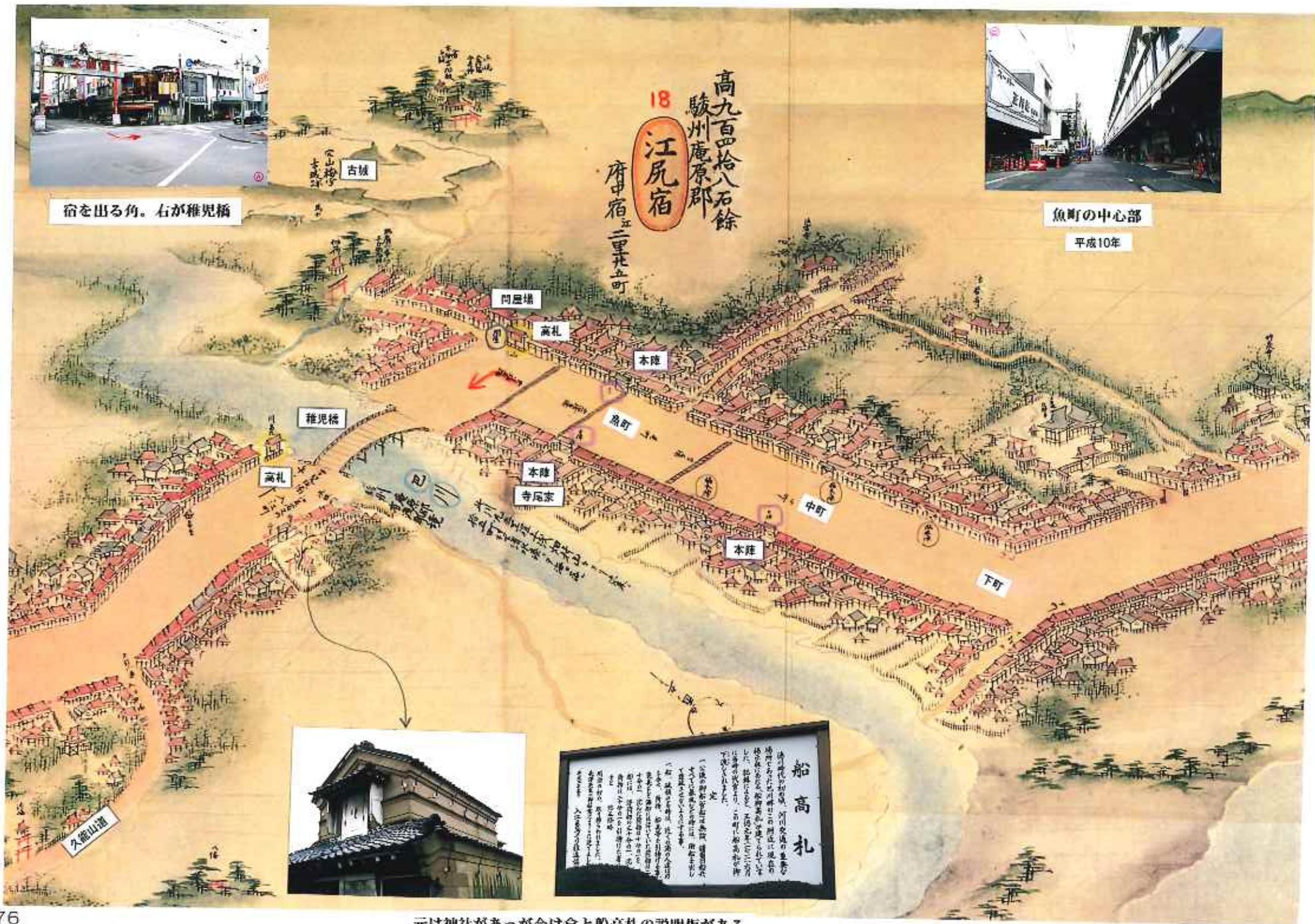


宿を出る角。右が稚児橋



魚町の中心部

平成10年



元は神社があつたが今は倉と船高札の説明板がある。



昔の中ノ郷の旧道をゆく。



左が久能山への道 江尻宿の稚児橋を渡るとすぐに
久能山への分岐点に出る。旧東海道は右側の道をゆく。



1号線との分岐点 直進するのが旧道。
静岡市春日1丁目。



元追分 手前の道を左に曲がると清水
港へ出る。道標があり「是よりしみず
道」とある。創業元禄8年（1695
）という老舗の追分羊羹の店がある。



絵図にある分岐点の絵。



東照宮本殿 江戸初期の元和3年（1617）に造営された。全国の東照宮の総本社。



絵図に描かれている久能山東照宮



家康公の神廟 元和2年（1616）4月17日死去。墓は西を向いている。

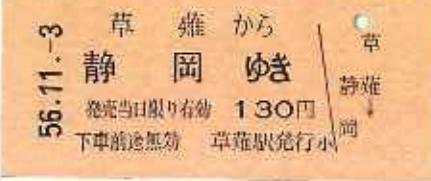


久能山の元は古く、33代推古天皇の頃（592～628）久能忠仁が創立したという久能寺が始まり。嘉禄年間（1225）焼失。その後、信玄の時代から家康の時代に移った。



海側からの久能山 こちら側が正面入口で頂上までの階段は1159段あるという。静岡市根古屋。

19 ≪府中宿≫



下本陣

2軒の本陣があった。

伝馬町の下本陣の小倉家が右側にあったが今はビルが建ち並んでいて場所が特定できない。



上本陣

脇本陣

2軒

同じ伝馬町に上本陣望月家が右側にあったがこちらも場所が特定できない。次の頁の絵の右にカープしている所が写真で見てとれる。



JR静岡駅

駿府とは駿河国の国府があった所から付いた名で駿府城の北側に国府があった。静岡県の中心地。



市内に入ると今ではめずらしい艾をあつかっている商家がある。

宿内人口

14071人

総家数

3673軒

旅籠

43軒

大小 中小 3軒 21軒 19軒

駿河国の中心地で国府や駿府城があった



左から来た旧道がここで西に折れる。
この先の左側が昔の遊廓があった所。
今の人宿町。



にぎやかな呉服町通りをゆく。この先
が札の辻で旧道はそこを左に曲がる。

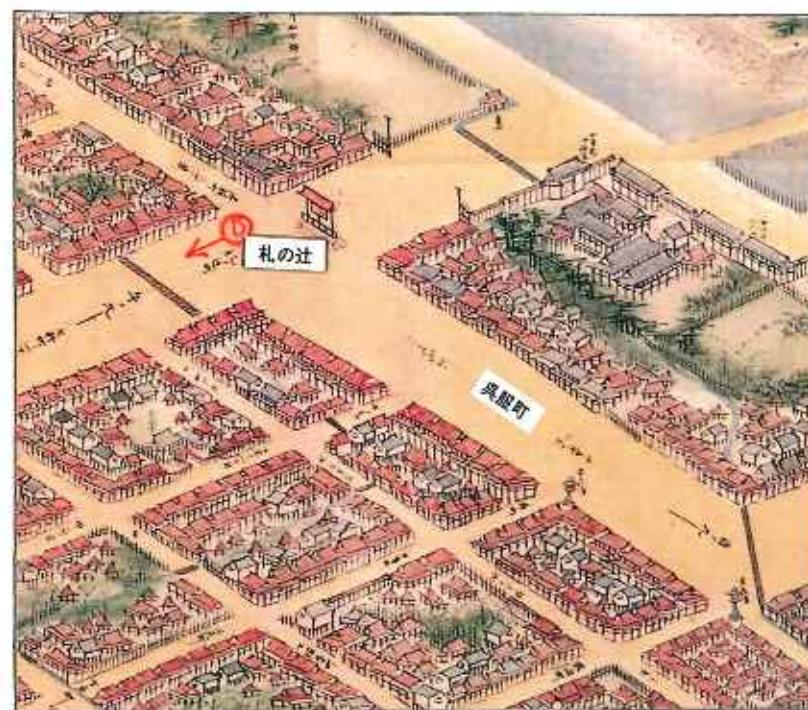


駿府城 天正17年（1589）家康が築城
した。晩年をここで過ごし75才でここでな
くなつた。城跡が少しづつ復元されている。



遊郭の跡地

昔の二丁町の遊廓があった所で、今で
もそれらしい建物が残っている。
今の川越町。



城下の中心地の呉服町。右が駿府城。



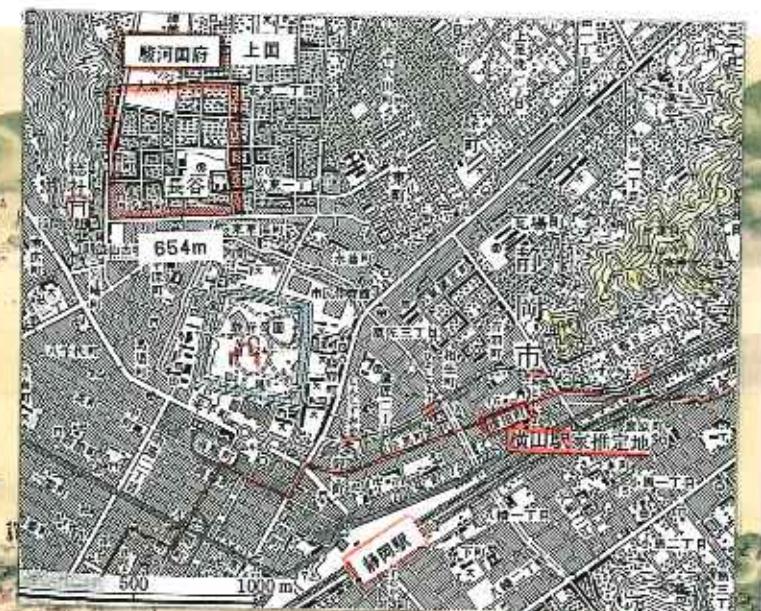
札の辻 手前が駿府城で左か
から来た旧道はここで西に曲
がり七間町に入る。



古代の東海道



駿河国の国府と古代の横田駅



古代の東海道の道筋



15代将軍徳川慶喜の屋敷跡。
明治24年「浮月楼」として保存された。



駿府城の石碑



上伝馬町を出る所。左が静岡駅



宿の中心部の呉服町

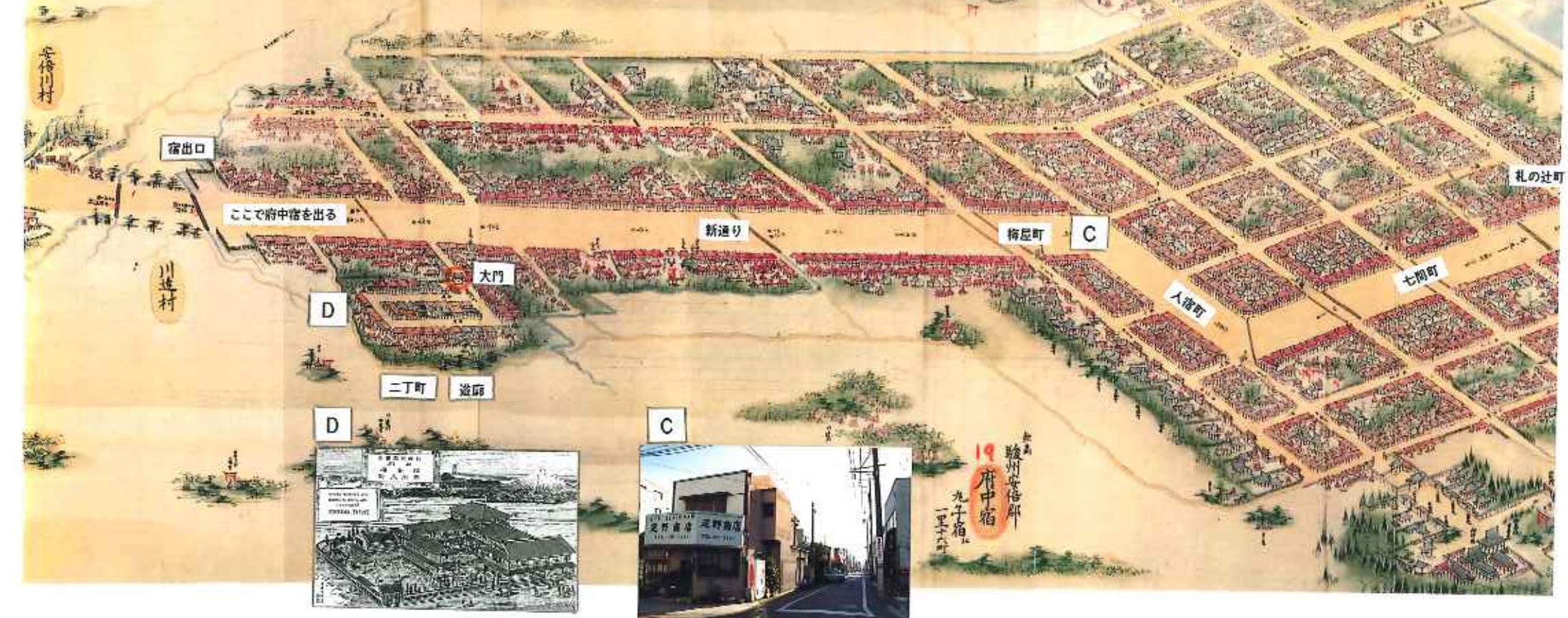


呉服町の入口の角を曲がる
左の道が東海道

宿の長さ28町(3052m)



『東海道400年祭ガイドブック』



明治の頃の「初音楼」



梅屋町の角から新通りを見る。



① 安倍川を渡りしばらく行くと、旧道は国道から左に分かれる。



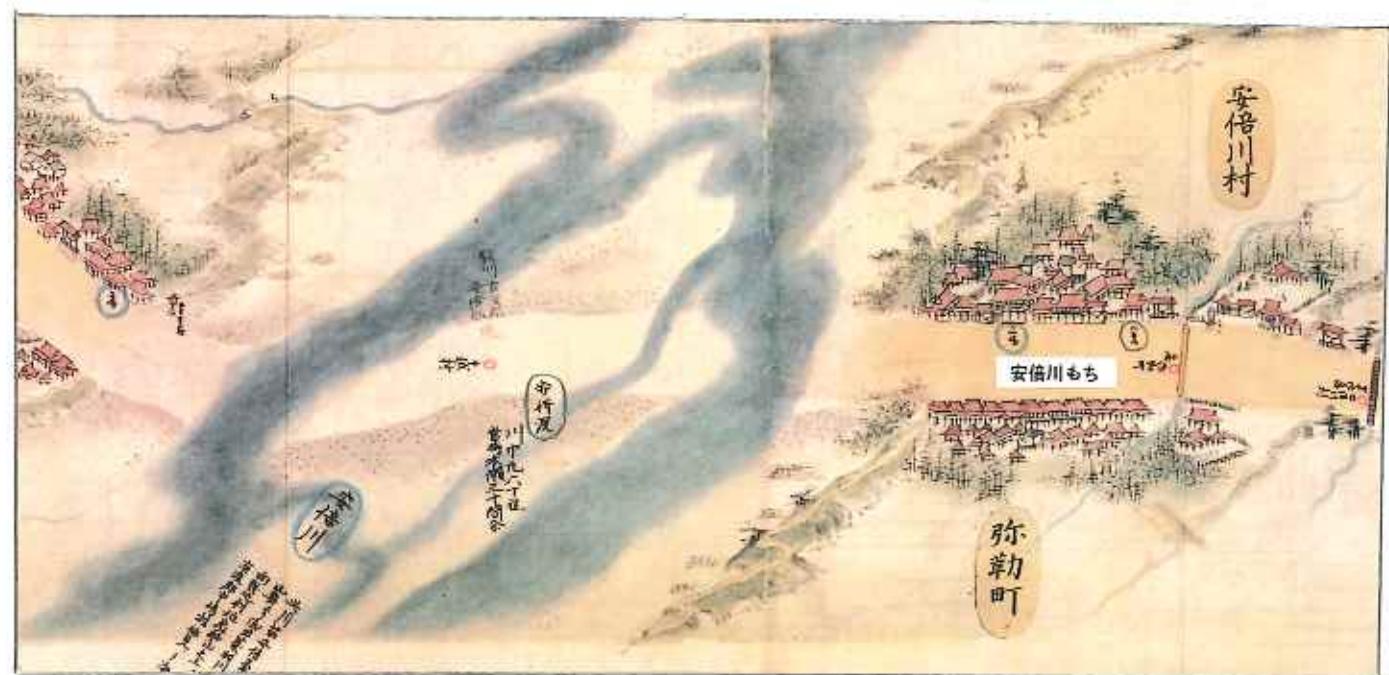
安倍川橋 現在の橋は大正12年に完成したもので、長さは191mある。



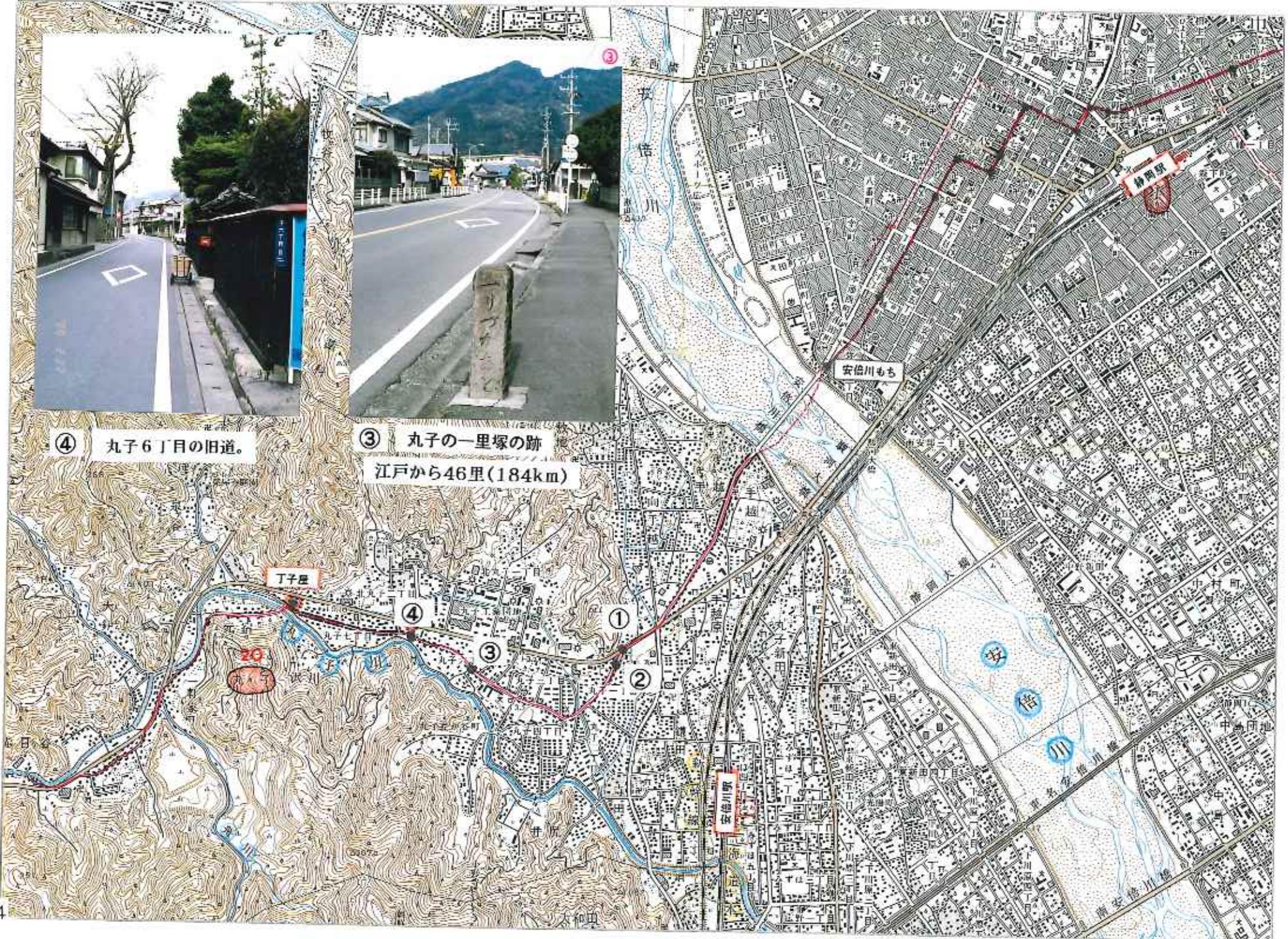
静岡市街をぬけて安倍川を渡る手前の左側に、名物の“あべ川もち”的石部屋がある。創業は文化元年（1804）で、他にも数軒売る店がある。



② 左に曲がってすぐ丸子1丁目の旧道の右に絵の地蔵堂が今でも残っている。



江戸時代は橋がなく歩いて渡ったが渡し船もあった。川の両側には事務を行う川会所が置かれていた。明治7年初めて橋が架けられた。



20 丸子宿

宇津谷峠をひかえた山里の宿。



本陣 1軒

横田家。建て換えられて昔の本陣の
おもかげは残っていない。

脇本陣 2軒

21. 丸子(丸子) Mariko (Maruko)



広重の東海道五十三次に描かれている丁子屋。
雰囲気が今の建物によく似ている。



安倍川を渡り、1号線を左に入り丸子宿に入る。左は古いしらい酒店。



有名なとろろ汁の丁子屋

慶長元年（1596）創業の老舗で、弥次・喜多も立ち寄り当時は10数軒の店があったという。

今の建物は古民家を昭和46年に移築して改修したものとある。

宿内人口

795人

総家数

211軒

旅籠

24軒

大2軒 中16軒 小6軒



茅葺きの昔ながらの
民家の食事処「丁子屋」
には東海道五十三次の絵
にも出てくる400年の
歴史を持つ老舗。静岡名
産の自然薯を使うたとろ
汁が有名。「このとろろ
汁は白みそ仕立てで、ほ
んのり甘味があるのが特
徴で、丸子宿の名物とし
て県内外の人々から愛さ
れている。

広重の絵にも出てくる
名物とろろ汁

丁子屋



宇津ノ谷峠と薦の細道



峠の下に「静岡県のまちなみ50選」
にも選ばれている古い集落が続いている。



宇津ノ谷村 宇津ノ谷峠の下の村で昔も道がカーブしていた。手前が峠への道。ふり返り。



峠への山道が続く

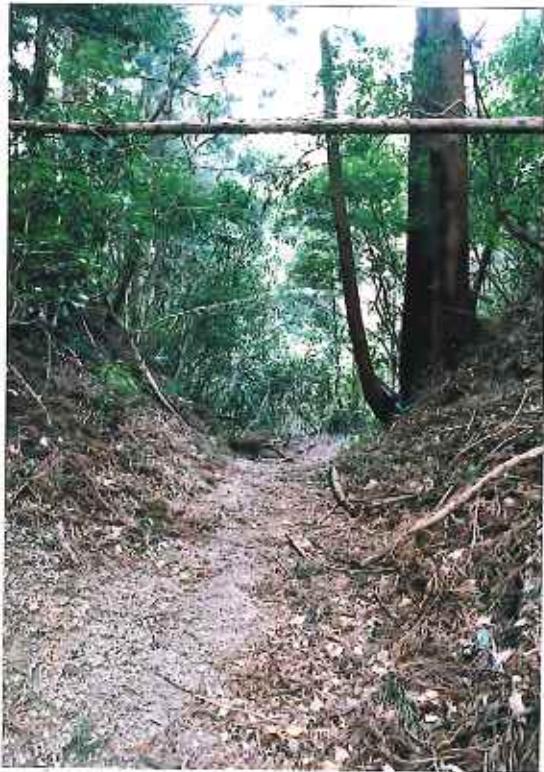


宇津ノ谷峠の登り口

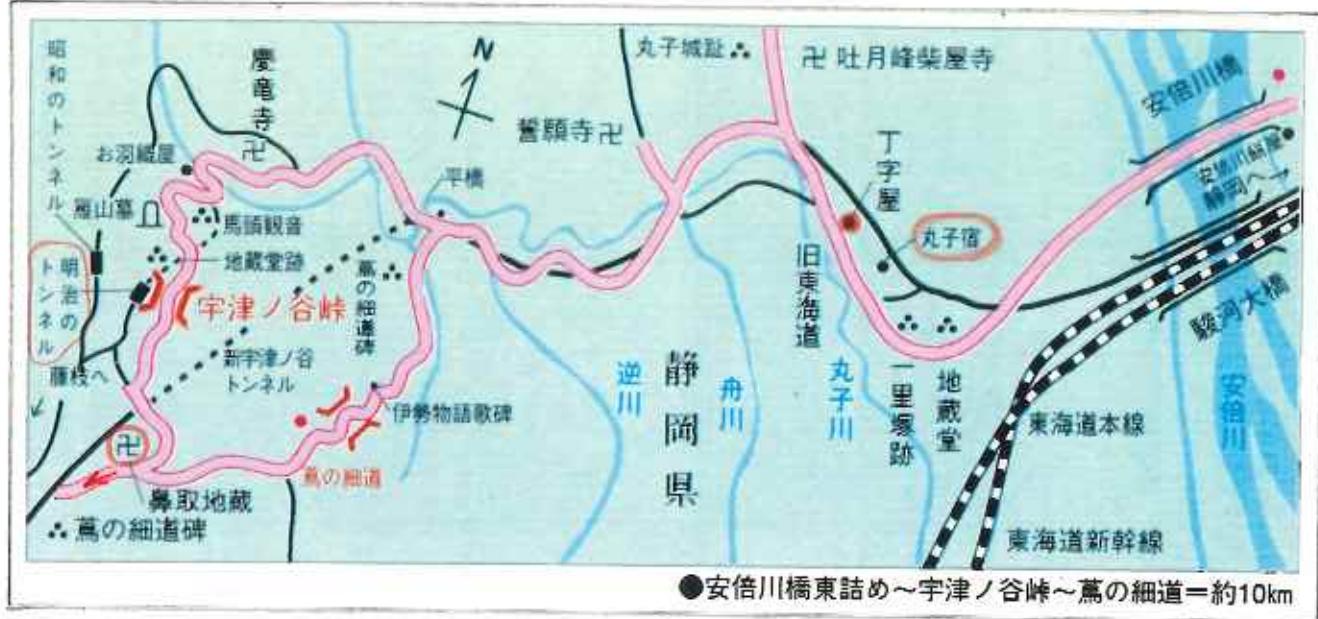
ここから峠の細い登り道となる。



薦の細道 平安時代から中世の頃まで利用された官道。近世に新らしい峠道が出来て荒廃したが、現在は再び整備されている。1.8 kmの街道。



安倍川橋から丸子宿を経て宇津ノ谷峠までの道



峠の頂上。これから下りとなる。



坂を下ると地蔵堂があり写真の少し先の右側に薦の細道の西の入口が見えている。バス停もある。



明治のトンネル 明治9年に開通し同32年、カンテラからの火災で通行不能となった。技術不足でくの字に曲がっていた。長さは223mあった。